

■ 運用資産の積上げ・ 利回り向上

個人向けローンにつきましては、昨年より実施している「お試しローン」キャンペーンを継続的に実施したほか、2004年6月には途上与信による極度増額を開始し、良質の資産積上げに努めました。また2005年3月にプロミス株式会社への保証業務委託を開始しました。

市場運用につきましては、流動性を重視した国債中心の運用方針を堅持しつつ、今後の長期金利上昇に対する耐性を高め、リスクを分散する観点から、変動利付国債の残高を増加させ、ABS(資産担保証券)やETF(上場投資信託)への新規投資を開始する等、運用資産の効率化を図りました。

営業の成果

■ 預金

預金は、期中536億69百万円増加し、期末残高は2,071億54百万円となりました。このうち定期性預金は、248億23百万円増加し、期末残高は823億8百万円となりました。

■ 貸出金

貸出金は、期中12億20百万円増加し、期末残高は174億29百万円となりました。これらはすべて個人向け貸出金であります。

■ 有価証券

有価証券は、期中1,395億60百万円増加し、期末残高は2,919億28百万円となりました。このうち国債は1,867億79百万円であります。

■ 総資産

総資産は、期中1,447億58百万円増加し、期末残高は3,485億40百万円となりました。

■ 内国為替取扱高

内国為替取扱高は、前年度比9,212億51百万円増加し、2兆2,191億23百万円となりました。

■ 損益の状況

収益面では、有価証券の運用残高増加、利回り向上により資金運用収益が大幅に増加したほか、効果的な銘柄の入れ替えにより国債等債券売却益を計上しました。また振込件数の増加により受入為替手数料が増加しました。費用面では、システムの安定稼働のため支出を増加させる一方で、事務合理化等の全社的な経費削減を継続し、費用の増加を抑制しました。

これらにより、経常収益につきましては、前年度比38億66百万円増加し、107億45百万円となりました。一方、経常費用につきましては、前年度比9億89百万円増加し、95億90百万円となりました。以上の結果、経常利益は11億54百万円、当期純利益は11億30百万円となり、創業以来初めて黒字を計上いたしました。